① 絵で見る十字軍物語

塩野七生著　ギュスターヴ・ドレ絵　新潮社　2010

② フランス革命の肖像

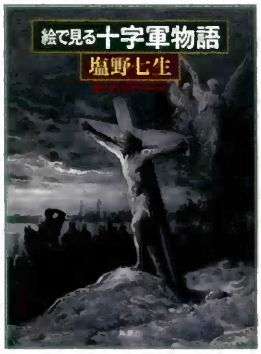
佐藤賢一著　集英社　2010
（集英社新書　ヴィジュアル版）

法科大学院教授 野村 秀敏

①は、『ローマ人の物語』（全15巻）で知られる著者が、その後の『ローマ亡き後の地中海世界』（全2巻）に引き続いて刊行した『十字軍物語』（全3巻）の姉妹編ないし別冊として刊行した作品であり、十字軍の歴史を描いたギュスターヴ・ドレの絵（元は19世紀前半の歴史作家フランソワ・ショーの文章にその世紀の後半になって付した挿絵）と、そこに描かれた場面の地図と著者の手になる解説を付したものである。また、②は、多くのフランス史に題材をとった小説で知られる著者が、現在刊行中の『小説フランス革命』（単行本全12巻、第6巻まで既刊）のいわば副読本として（①とは異なって、著者自身はそのように謳っていないが、実質的にそうであることは明らかである）、そこに登場する人々の肖像画を集め、多少の解説を付したものである。

①②の本編とも言うべき著作の面白さはここで論評するまでもないが、その面白さが①②によって益々引き立たされ、その読者の想像力が刺激されて登場人物が動きだす感がするのではなかろうか。これは、歴史というものが人間の営みの集積である以上、すぐれた著作と興味深いヴィジュアル素材に恵まれれば当然にもたらされる結果とも考えられる。それに反し、私の専門とする法律学はとかく無味乾燥な学問分野と受け取られがちであるが、これも人間の営みを対象としている以上、常に現実世界との関わり合いを念頭におきつつ学習を進めれば、決してそのような学問分野ではないことが理解していただけるものと思う。最近では、法律学の分野でも若干のヴィジュアル教材も刊行されている。なお、フランス革命と言えば、本学図書館にはベルンシュタイン文庫という貴重な資料が収蔵されている。そのうちの幾つかは本学130年を記念して開催された『二つのモダーン』という特別展で一般にも公開され、その折りのパンフレットであれば今でも簡単に手にすることができる。これに掲載されている肖像画と②のそれ（同一人物でも同一のものはほとんどない）とを較べてみるのも一興であろう。

①



②

『ローマ人の物語』1-15
塩野七生著　新潮社
1992-2006

『ローマ亡き後の地中海世界』　上・下
塩野七生著　新潮社　2008-2009

『小説フランス革命』1-6
佐藤賢一著　集英社　2008-2010